

オンライン講演会・グループワーク ストレンクス・ファインダー 地域交流企画 北海道&統括

青年技術士交流委員会では、北海道本部と統括本部の地域交流企画として、統括本部 青年技術士交流委員会 竹内将人委員長(当時)を講師に迎え、「ストレンクス・ファインダー」のオンライン講演会、グループワーク(以下GW)を開催しました。本講演会では、参加者全員が後述するテストを事前に受けた上で臨み、その結果も踏まえた講演・GWでした。以下に開催概要を報告します。

1. オンライン講演会・グループワークの概要

- 日時：令和3年6月6日(日) 13時～17時
- 第1部：講演・グループシェア
- 第2部：グループワーク
- 開催方法：Zoom ミーティングによるオンライン
- 参加者 22名

2. ストレンクス・ファインダーとは

ストレンクス・ファインダーは、故ドナルド・O・クリフトン博士により1998年に開発され、ギャラップ社により運用されています。世間では、弱点を直して成長することが関心事項となっておりますが、ストレンクス・ファインダーでは、短所ではなく長所を伸ばして成長を手に入れるという考え方が基本となっています。人々に共通する34の資質(才能)が言語化されており、インターネット上のテスト(有料)を受けることにより自分の資質を知ることができます。さらに、結果に基づいた自分専用のガイドやレポートを確認でき、資質が人生でどのような役割を果たすのかを知ることができます。

※「さあ、才能(じぶん)に目覚めよう トム・ラス著 古屋博子訳 日本経済新聞出版」より引用

3. 講演会

講演会では、ギャラップ社認定ストレンクスコーチである竹内委員長に、「ひとりひとりの強みを互

いに理解し、チームで強みを生かし、相互に補完することによりチームの成功循環モデルを回す」ことを目的に、①自身の資質を知る(強み・エネルギーの源) ②メンバーの資質を知る(異なる資質へのリスクペクト) ③自身の資質を活かす方法を考える を目標として、講演いただきました(写真-1)。



写真-1 講演状況

講演では、はじめに「すごいチームを作るための秘訣である成功循環モデル」(図-1)について、続いてストレンクス・ファインダー・資質について説明していただきました。



図-1 成功循環モデル

さらに、34ある資質のうち、各参加者の上位資質に該当する資質について、対象となる資質と比較する形で特徴と注意点に関して詳細に説明していただきました。説明後には、各資質が1位となる人に資質証言を話してもらい、資質について理解を深めました。各資質の説明は3回に分けて行い、説明終

了後にはグループシェアとして、4～5名に分けられた5グループ内で説明された資質を上位資質に持つ人の資質証言によりさらなる理解を深めました。

次に、講演で説明のあった資質の詳細および印象に残った資質証言や証言状況を示します。

(1) 資質の詳細

資質は上述したように34に分けられており、大きく以下の4つに分類されます(図-2)。

- ・ 実行力：成果を出す
- ・ 影響力：自分の思った方向に人を動かしたい
- ・ 人間関係構築力：相手のためを、まず気にする
- ・ 戦略的思考力：まず考えたい



図-2 34の資質

どの資質もすばらしく、良し悪しはなく、自然体で発揮されるものとなります。上位資質は思考・感情・行動のパターンであり、本人にとっては普通であっても、他人からは個性的と映ります。しかし、自然体として出てしまうがゆえに、使い方に注意(時に弱みとなってしまう)が必要となります。

人は、それぞれ固有の特徴(上位資質)を持っており、どの資質も強みとなります。自分のエネルギーの源泉・強みの元となる資質を知ることにより以下のようなことが期待されます。

- ①成長やパフォーマンスの向上
- ②チームへの貢献

さらに、他の人の資質を知ると、自分と異なるところに注目すべき対象を持つ人がいることが知れ、全く違う世界観・価値観により達成されるものがあることに気づくことができます。これにより、互いにリスペクトが生まれ、相互補完へ繋がります。

資質は、時間経過によって大きく変わらないと言

われています。人生を大きく変えるような結婚・出産等のイベントがあると多少変わると言われていますが、トップテンが入れ替わる程度で大きく変わらないものとなります。

(2) 印象に残った資質証言や証言状況

- ・ 自分の上位資質に対しては、皆同じように感じていると思う(そんなことはない場合がある)
- ・ 自分の資質を話す際、生き生きと楽しそうに話す
- ・ 資質の特徴的な行動は、その資質を有していない人の目には奇異に映ることがある
- ・ 同じ上位資質を持つ人でも、その他の資質とのかわりによって、資質の出方が異なる

4. グループワーク(GW)

GWでは、グループシェアと同じ5グループに分けて、Zoom ミーティングのブレイクアウトルーム(グループ分け機能)を用いて実施しました。

GWのお題は、「無人島に船で漂着してしまいました。どこかもわからないし何も所持していません。力を合わせてこの状況を乗り越えてください!」というもので、制限時間60分で議論・整理しました。各グループとも、上位資質を反映・組み合わせた初期行動の想定、役割分担を行っていました。

GWを実施した気づきとして、「資質があらかじめわかっていたら、皆の特徴を活かした納得のいく役割分担ができる」ということがありました。また開始から30分後には、「ひとつだけ道具を持ち込んでよいとします」という新たな設定が加わりましたが、2グループから「このグループであれば不要」と強気の答えが出るほど、メンバーの資質が分かれば効果的・効率的に活動ができると感じました。

またGWの体験から、ストレングス・ファインダーを仕事やコミュニティに取り入れると、「資質を活かした効率的・効果的な教育・指導」や「チーム形成への資質考慮によるパフォーマンス向上やチーム内の相互補完」が期待できると感じました。

5. 終わりに

青年技術士交流委員会では、本講演会での学びを活かし、自身の資質と幹事や参加者の資質を理解して関係の質を高め、今後の交流・親睦に繋がっていきます。今後も仕事の質の向上や技術向上へ繋がる活動やイベントを展開していきたいと思えます。